



雪崩・地すべり 研究センターたより

季刊・第59号
2012. 1月発行

Snow Avalanche and Landslide Research Center, Erosion and Sediment Control Research Group

主な記事 ・年頭あいさつ ・トピックス（雪崩・地すべり防止技術セミナー、国際会議、学会、雪崩災害防止セミナー） ・転入者あいさつ ・ニュートンのリンゴの木

新年明けましておめでとうございます。



開発した地下水調査機器（加熱式地下水検層器）による地すべり調査



雪崩発生予測のための積雪断面観測

昨年は、私たち防災対策に携わる者にとって心に刻み続けなければならない年となりました。自然災害に対する事前の想定がいかに難しいか。一方で難しい中でも安全を確保するために必要な準備を着実に進めなければならないわけですから、科学技術を発展させていくと同時に、現在までに分かっていること、まだ分からないことを丁寧にしかも分かり易く説明をすることが強く求められている、と受け止めています。

毎年 12 月第一週の雪崩防災週間にあわせて、雪崩についてのセミナーを主催しています。今冬は島根県松江市内での開催でしたが、終了後のアンケートの中に「世の中にはいろんな仕事があると思った」という感想がありました。雪や雪崩に関わる仕事が身近にある立場、地域にいる者にとっては予想外の、そして考えさせられるコメントです。専門集団とその外側にいる人々の間をつなぐ言葉、道具をそろえておく必要があると思いました。

当センターでは、今後とも斜面災害による被害の軽減に役立つ技術の開発に取り組んで参りますので、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。今年こそはよい年になりますように。

トピックス

■雪崩・地すべり防止技術セミナー

10月28日に、新潟県妙高市において「第6回雪崩・地すべり防止技術セミナー」が開催されました。セミナーでは、国土技術政策総合研究所後藤危機管理技術研究センター長により「河道閉塞（天然ダム）形成時の初動対応について」と題して講演をいただきました。当センターからは、「近年の雪崩災害事例と雪崩・地すべり研究センターの取り組み」、「地震による地すべり発生危険度評価手法」について紹介しました。



■国際会議

第5回洪水管理国際会議が、9月27～29日に東京で開催されました。当センターからは、池田が「SNOW PACK PROPERTIES FOR SNOW AVALANCHING IN THE CENTRAL MOUNTAIN AREA, JAPAN」を発表しました。また、第2回世界地すべりフォーラムが、10月3～9日にイタリアのローマで開催されました(写真)。当センターからは、中村と前専門研究員のハスパートルが「最近の東日本における地震による地すべりの統計分析—既存地すべり地形を対象に—」と「活断層周辺における地すべりの危険度評価—新潟県上越地方を例に—」を発表しました。



■全国地すべりがけ崩れ対策協議会研究発表会

10月20～21日に、福井市で第65回研究発表会が開催されました。当センターからは、丸山が「既存地すべり地形における地震時地すべり発生危険度の評価手法」を発表しました。



■寒地技術シンポジウム

11月30日～12月2日に、札幌市で第27回寒地技術シンポジウムが開催されました。当センターからは、池田が「スラブ(雪崩層)の強度を考慮した積雪安定度の検討」を、共同研究を実施している奥山ボーリング(株)の張弛氏が「連続体モデルによるシミュレーション技術の雪崩に対する適用性の検討」をそれぞれ発表しました。

■雪崩災害防止セミナー

12月6日に島根県松江市で第5回雪崩災害防止セミナーが開催されました(主催:土木研究所、共催:島根県、後援:国土交通省中国地方整備局)。



セミナーでは、特定非営利活動法人 氷河・雪氷圏環境研究舎 成瀬廉二理事長による「2010/11年山陰地方の豪雪と雪崩」の講演に続いて、寒地土木研究所 雪氷チーム松澤上席研究員による「雪崩に関する

基礎知識」、松下研究員による「最近の道路雪崩対策の課題と研究への取り組み」、当センターの池田による「信越地方を中心とした最近の雪崩事例について」の各発表が行われました。

■地すべり防止施設点検学習会

12月19～20日に、「第6回地すべり防止施設点検学習会」が、国土交通省利根川水系砂防事務所、群馬県砂防課主催により群馬県藤岡市で開催され、講師として参加しました。

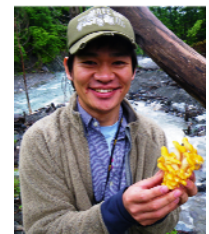


この学習会は、関東甲信地区の国、都県、研究機関の地すべり担当者が、地すべり防止施設の維持管理手法について学習するものです。19日の学習会では、地すべりチームの千田総括主任研究員が「地すべり防止施設の維持管理のための調査(研究)と課題」、当センターの丸山が「地すべり防止施設の維持管理—地表水・地下水排除施設—」と題して講義を行いました。20日には譲原地すべりの集水井工事現場、譲原防災センター、排水トンネル及び、保美濃山地すべりの各視察が行われました。

■転入者あいさつ

■専門研究員 木村 諒(たかし)

12月から専門研究員として勤務することとなりました。これまでは北海道大学の博士後期課程生として、山地河川における土砂動態の研究を進めてきました。今後は、大規模な災害や河川への土砂の流入につながる、流動化する地すべりに注目し、発生予測手法の構築に向けて職務に励んで参りたいと思います。




■ニュートンのリンゴの木

写真は、1月6日の状況です。昨年は雪により枝が数本折れたためか、リンゴの収穫はゼロでした。今年の豊作を祈念しています。



雪崩・地すべり研究センターに関する記事は、ホームページにも掲載してありますので、ご覧下さい。

発行: 独立行政法人 土木研究所 つくば中央研究所
土砂管理研究グループ 雪崩・地すべり研究センター 
住所: 〒944-0051 新潟県妙高市錦町2-6-8
TEL:0255-72-4131 FAX:0255-72-9629 URL: <http://www.pwri.go.jp>
掲載内容は現時点までの調査結果等に基づいています。今後の調査研究により内容の一部または全部に変更が生じる場合があることをご了承下さい。